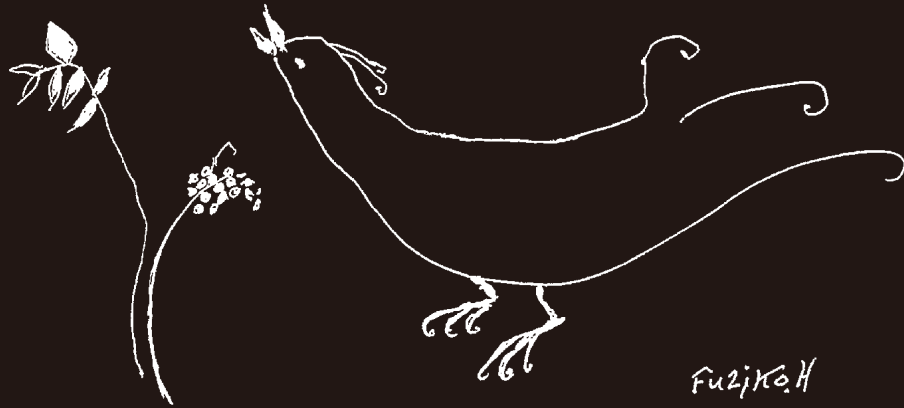


フジコ・ヘミング
ピアノ コンサート 2019



2019年6月7日

すみだトリフォニーホール

主催：ラ・カンパネッラ／青葉ピアノ

協力：ベーゼンドルファー・ジャパン

画 Fuziko.H

PROGRAM

D. スカルラッチェ (1685-1757) Domenico Scarlatti

- ◆ ソナタ ホ長調 K.380 (L.23)
- ◆ ソナタ ハ長調 K.159 (L.104)

W.A. モーツァルト (1756-1791) Wolfgang Amadeus Mozart

- ◆ ソナタ 第11番 イ長調 「トルコ行進曲付き」 作品331
 - 第1楽章 主題と変奏－アンダンテ・グラツィオーソ
 - 第2楽章 メヌエット
 - 第3楽章 ロンド “トルコ風”－アレグレット

F. ショパン (1810-1849) Frédéric Chopin

- ◆ エチュード 変イ長調 作品25-1 「エオリアンハーブ」
- ◆ エチュード ホ長調 作品10-3 「別れの曲」
- ◆ エチュード 変ト長調 作品10-5 「黒鍵」
- ◆ エチュード ハ短調 作品10-12 「革命」
- ◆ ノクターン 変ロ短調 作品9-1
- ◆ ポロネーズ 第6番 変イ長調 作品53 「英雄」

..... intermission

C. A. ドビュッシー (1862-1918) Claude Achille Debussy

- ◆ 月の光 「ベルガマスク組曲」より 第3曲
- ◆ 雨の庭 「版画」より 第3曲

F. リスト (1811-1886) Franz Liszt

- ◆ パガニーニによる大練習曲 第6番
イ短調 「主題と変奏」 作品141より
- ◆ 愛の夢 第3番 変イ長調 作品541より
- ◆ パガニーニによる大練習曲 第3番
嬰ト短調 「ラ・カンパネラ」 作品141より

*演奏曲目、曲順が一部変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

Ingrid Fuzjko Hemming イングリット・フジコ・ヘミング

スウェーデン人建築家ヨスタ・ジョルジ・ヘミングと東京音楽学校(現・東京芸術大学)出身のピアニスト大月投綱子を両親としてベルリンで生まれる。

母の指導で幼い頃からピアノを始めた。

10歳のとき、レオニード・クロイツァーにつき、大きな影響を受ける。

クロイツァーは、彼女が将来、世界中の人々を魅惑するピアニストになるだろうと予言していた。

青山学院、東京芸術大学をへて、NHK・毎日コンクール受賞、日本フィルなど数多くのオーケストラと共演、来日中のサムソン・フランソワは、フジコのショパン、リストを聴き絶賛。その後、ベルリン国立音楽学校に入学し首席で卒業。

その後、ウィーンに移り、後見人でもあったバウル・バドゥーラ・スコダに師事した。

今世紀最大の一人ともいわれる作曲家・指揮者のブルーノ・マデルナにウィーンで才能を認められ、彼のソリストとして契約したことは、彼女が最も誇りとしているところのひとつである。

ちなみにこの成約に際しては、彼女の演奏に感銘を受けたレナード・バーンスタインからのサポート(支持・援助)があった。

ヨーロッパでの多くの演奏会は大成功をおさめた。

1968年すでにドイツの“DieWelt”紙は「ピアノを弾くため、ショパンとリストの為に生まれて来た。」また「日本から偉大なピアニストが出た。」と報じている。

ドイツ、オーストリア、スウェーデンでの放送は、好評につき、たびたび再放送された。

その頃、フジコ・ヘミングは、ウィーンで演奏会直前に聴力を失った。

1999年NHKで放送されたETV特集は、大反響を呼び、その後、何度も再放送される。

同年8月に発売されたファーストCD『奇蹟のカンパネラ』は200万枚を超える売り上げという、クラシック界異例の大ヒットを記録し、いまだにその記録を更新し続けている。これまで2枚のCDで日本ゴールドディスク大賞、4度にわたる各賞のクラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを受賞。

2000年以来、モスクワフィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団、ベルギー国立管弦楽団、イギリス室内管弦楽団他と共演。2001年6月には、ニューヨーク・カーネギーホールでのリサイタルに3000人の聴衆が会場を埋め尽くし、感動の渦を巻き起こした。集まった聴衆からは「マリア・カラス以来の大盛会」と絶賛の声が絶えず、大成功とともに演奏活動の幅を世界へと広げるための第一歩を踏み出した。

2003年10月には、愛と感動のスペシャルドラマ『フジ子・ヘミングの軌跡』が、フジテレビ系で放送

ピアニスト、フジコ・ヘミングの波瀾万丈の半生を描いた『フジ子・ヘミングの軌跡』は、スペシャルドラマ放送では高視聴率を記録した。

2007年より現在までワルシャワショパンフェスティバル、パプロ・カザルスインターナショナルフェスティバル、ソフィアインターナショナルフェスティバルなどから招待されている。その他この10年にわたる世界中の伝説あるコンサートホールでのソロ公演や世界の第一線で活動する著名オーケストラ、ロイヤルフィルとの共演は枚挙にいとまがない。彼女と協演した際、ミッシェル・マイスキーは“忘れ得ないピアニスト”、マキシム・ヴェンゲロフは“あなたの芸術を賞賛します”と形容している。その他共演した多くのアーティストから絶賛されている。

2013年には、モスクワ・フィル、チェコラジオシンフォニーなどからソリストとして招待されている。世界各国の定期公演に出演し、その名声を海外に広げている。

同年、フジコの最新CDが、スペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーにより1位に選ばれた。

2014年には9月から11月までヨーロッパ9ヵ所11会場で開催し、各地でスタンディングオベーションを受け大好評を博した。

2015年6月にはブラハ放送交響楽団、キエフ国立フィルハーモニー交響楽団との共演、2004年頃から何度も共演しているモスクワフィルハーモニー管弦楽団と2016年2月に再び共演し素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。

2016年4月にはニューヨークの国連本部会議場で「日本国連加盟60周年記念」の文化事業で演奏し拍手喝采。その後チリ、アルゼンチン、マナウス、パラグアイでも「日本人移民開始80周年記念文化事業」コンサートと南米ツアーを大好評で終えた。

秋にはヨーロッパ6ヵ国10公演を行い、日本では、エルサレム交響楽団などと精力的に演奏活動を行い2017年にはイタリア、国立管弦楽団と共演、アメリカツアーを大成功で終えた。

6月以降モスクワフィル、ハンブルク交響楽団、ロシア国立交響楽団、バルチック管弦楽四重奏団と共演、ブタペスト、キエフなどでソロ公演を大盛況でおえた。夏のポーランドフェスティバルに出演、地元ラジオ局は、「コンサートで観客は、ショパン、リスト、などの曲の演奏に酔いしれた。彼女のピアノ演奏が綺麗だった。私は、この時代に技術的に美しく演奏するようなピアニストを聞いたことがない。彼女は作曲家の全てのキャラクターと魂を再現した。それは美しかった。」と大絶賛の評価を受けた。

2018年3月にはイタリア国立管弦楽団とイタリアツアー、オーストリアでウィーン室内管弦楽団とモーツァルトホールで共演春のジャパントアツアーを終えて7月ニューヨークのカーネギーホール公演、9月からのヨーロッパツアー10月末にはアメリカ、サンフランシスコに移動してコンサートを終えて2018年最終のジャパントアツアーを大盛況に終える。

2019年3月パリ、サル・ガヴォーのソロリサイタルを大成功に終えポルトガル公演へポルトガルのブラガ・ヴィゼウ・ローレでポルトガルフィルハーモニー管弦楽団と共演、ローレではソロリサイタルも行い成功をおさめた。

4月より2019年春のジャパントアツアーが始まっている。

今後の予定としては7月にサンフランシスコ(ハーバーストシアターホール)、ロサンゼルス(ウォルト・ディズニー・コンサートホール)、ニューヨーク(カーネギーホール)でソロリサイタルが予定されている。

昨年のカーネギーホールの公演が大反響で今年は7月25日と7月27日の2回が予定されている。

コンサート情報等の詳細はフジコ・ヘミング公式サイトをご覧ください。

